

会 議 録

1 会議名

第10回上越市クリーンセンター生活環境保全協議会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 上越市クリーンセンターの運営状況について（公開）
- (2) 環境測定結果について（公開）
- (3) その他（公開）

3 開催日時

令和元年7月6日（土）午後1時30分から

4 開催場所

上越市クリーンセンター2階 大会議室

5 傍聴人の数

0人

6 出席した者（敬称略）

- ・ 委 員：山縣 耕太郎、清水 忠明、白木 朝雄、小林 一成、西條 栄市、
吉田 文雄、小山 秋美、濱田 雅巳、武田 徹
- ・ 事 務 局：（生活環境課）瀧本課長、山本副課長、樋口主任、石野副主任
（環境保全課）布施課長
- ・ 運営事業者：（上越環境テクノロジー株式会社）
西野所長、嶋岡副所長、大坪運転責任者補佐
（日立造船株式会社）
森山部長

7 発言の内容

【開会】

（山本副課長）

- ・ 開会宣言

【挨拶】

（瀧本課長）

- ・ 挨拶

(山本副課長)

- ・「協議会設置要綱第6条第2項」の規定により、会議が成立することを委員に報告後、
進行を山縣会長へ

【協議(1) 上越市クリーンセンターの運営状況について】

(山縣会長)

- ・協議(1)について、事務局に説明を求める

(西野所長)

- ・資料1に基づき説明

(山縣会長)

- ・事務局の説明について、委員に意見を求める

(濱田委員)

○ごみ量が増えた原因を分別区分の変更によるものと説明があったが、プラスチック製品を燃やせるごみにしたという認識でよいか。

(西野所長)

○去年の4月からプラスチック製品を燃やせるごみに変更した。

(濱田委員)

○その分が増えた。

(西野所長)

○そのように考えている。

(濱田委員)

○シュレッダーダストは入っているのか。

(西野所長)

○入っている。

(濱田委員)

○焼却灰の資源化は、上越市で実施しているのか。

(西野所長)

○灰の処理は、上越市で実施している。

(濱田委員)

○資源化の方法は、セメント、路盤材、人工砂と説明があったが、どういう手法(セメントの原料化、熔融、焼成等)で実施しているのか。

(山本副課長)

○焼却灰については、糸魚川市のセメント製造工場で、セメント原料（粘土の代替）として使用していただいている。

○これ以外には、関東の方で灰を溶融し、スラグ化している。ここでは飛灰も処理している。

○また、焼成によって人工砂に利用されている。

(濱田委員)

○割合は。

(山本副課長)

○後ほど回答させていただく。

(濱田委員)

○排ガス分析値について、折れ線グラフで示されているが、これは、生値か、移動平均値か。

(西野所長)

○1H（CO は、4H）移動平均値としている。

(濱田委員)

○グラフで、一直線（何日間も同じ値）になっている部分があるが、これは何か原因があるのか。

○ある程度の振れ幅があると思うが。

(西野所長)

○これは、1年分のグラフを圧縮しているので、振れ幅が小さいところは、一直線で示されてしまう。

(山本副課長)

○先ほどの資源化割合の件について、セメント原料化が80%、焼成が15%、溶融が5%となっている。

(山縣会長)

○ごみの受け入れ量の話だが、プラスチック製品が燃やせるごみになったことによって、29年度比で1.67%増加したと説明があった。

○思ったより少ない印象だが、妥当な範囲か。

(山本副課長)

○当初見込んでいた量よりは少ない。

(濱田委員)

○プラスチック製品は燃やせないごみであったことから、分別変更後、燃やせるごみがどれだけ増え、燃やせないごみがどれだけ減ったかを実数で比較する必要がある。

(山本副課長)

○昨年の4月に始まったばかりで、市民が仮に間違えて燃やせないごみに出してあっても、市は収集することとしている。

○今後、分別のやり方が慣れてくれば、燃やせるごみ側に振られた分が増えてくるものと考えている。

【協議(2) 環境測定結果について】

(山縣会長)

- ・協議(2)について、事務局に説明を求める

(西野所長)

- ・資料2に基づき説明

(濱田委員)

○土壌中のダイオキシン類測定について、平成29年度の数字はあるのか。

○それとの比較はあるか。

(西野所長)

○平成29年度は、1回実施している。

○基準値と比較して、非常に小さい数字になるため、グラフでは差がわからない。

(濱田委員)

○(資料2、13ページを見ながら)蒸気復水器はどこに配置されているのか。

○同様の施設でよく問題になるのが、蒸気復水器の騒音。

(西野所長)

- ・13ページの配置図内で当該箇所示す

(濱田委員)

○一番近いのが「地点2」ということになるが、基準はクリアされているので問題はない。

【協議(3) その他】

(事務局)

- ・昨年の火災事故について概要説明
- ・原因と発生防止策を運営事業者から説明する旨を説明

(西野所長)

・資料6により説明

(濱田委員)

○灰押出装置の換気について、炉で引くものと換気装置で引くものを分けたということとは、炉内圧の変動を考慮してか。

(西野所長)

○炉内圧の変動を考慮したものである。
○設計値の2倍の量を換気することとした。

(濱田委員)

○従来の形（炉に引き込む）がスタンダードであると考えているが、これからはこれがスタンダードになるのか。

(森山部長)

○密閉型を採用した場合は、これがスタンダードになるだろうと考えている。

(山縣委員)

○想定の2倍の量を引くようにしたとのことだが、当初の見積もりが低すぎたということか。

(山本副課長)

○火災事故が発生したときは、定期修繕が完了した直後で、ごみピットにはかなりの量のごみが堆積していたため、攪拌作業がうまくできていなかった可能性がある。
○その中でたまたまアルミ分を多く含むごみを投入してしまい、事故の原因になったのではないか。
○今回の対策は、たとえそのようなごみが入ったとしても、事故が起こらないような体制を構築したもの。

(山縣委員)

・全体を通して、意見を求める。

(濱田委員)

○資料4-1、4-2のごみ質分析にある真発熱量の計算値とは。

(森山部長)

○環整第95号で書かれている計算式で求めたHUである。

(濱田委員)

○環整第95号の係数を使うと、HUは低く出る傾向にある。
○発電効率の計算は、どの値を使用しているのか。

(西野所長)

○DCS の値を使用している。

(清水委員)

○ごみの発熱量の計算は、入ってきたごみをベースにしているのか。

(西野所長)

○ごみピットからサンプリングしている。

(山縣会長)

○資料7の説明がなかったが。

(西野所長)

○この資料は、補足資料であるので、あとでご確認いただきたい。

(清水委員)

○ごみの分別の話でプラごみが入っているとあったが、容器リサイクル法のプラごみも入ってきているのか。

(山本副課長)

○製品プラを燃やせるごみとしている。

(山縣会長)

・協議終了、進行を事務局へ

【閉会】

(山本副課長)

・閉会宣言

8 問合せ先

自治・市民環境部生活環境課ごみ焼却係 TEL : 025-526-5111 (内線 10201620)

E-mail : seikatsu@city.joetsu.lg.jp

9 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。